

広島県連合小学校長会から「新たな風を！」

広島県連合小学校長会 会長 山口 美穂



様々な思いを抱えながら迎えた今年度も、早数か月が経ちました。皆様、学校の様子はいかがですか。

さて近年、私たちが直面する課題は、多様化・深刻化しています。学ぶ意義を十分に見いだせず、主体的に学びに向かうことができている子供の増加、不登校や特別支援教育の対象となる児童等への支援の充実、教員の不足等、課題は山積です。また、現在、中央教育審議会では、子供たち一人一人に合った個別最適な

学びと協働的な学びの一体的な充実を目指し、学習指導要領の改訂等の議論が進められています。さらに、小学校中学年からの教科担任制の本格化や、ICTや生成AI等、デジタル学習基盤の効果的な活用、教職員の働き方改革など、教育現場の多様な課題に対応するための取組も進んでいます。

このように、大きく変化する環境や課題への対応は、決して一筋縄ではいきません。しかし、こんな時だからこそ、私たち校長が先頭に立ち、子供たちの可能性を最大限に引き出しながら、安全・安心な学校づくりに挑戦していくことが、今まで以上に重要になるのではないのでしょうか。

そこで、次の三点を皆様と共有し、今年度の取組をより充実させていきたいと思えます。

一点目は、「原点に立ち返り、校長会の意義を考える」ということです。

県連小は、戦後まもない昭和 25 年に広島県教育の充実と発展を願い設立されました。本会の歴史は長く、今年度で 76 年目を迎えます。令和 3 年度には、広島市小学校長会との組織上分離という大きな転換期を迎えました。しかし、本校長会の意義は、これまで同様、県内すべての小学校校長が繋がり、学び合うことを通して、校長としての視野を広げ視座を高めることで、課題解決への方向性を見出していくこと。また、学校の実態や思いを集約し、学校現場の声を県・国に届けることです。原点に立ち返り、今年度も実のある取組を進めていきましょう。

二点目は、「連携と共有」です。県内各地の校長同士が積極的に情報交換を行い、成功事例や課題、対応策、さらに県や国の教育政策の動向や新たな施策などの最新の情報を互いに共有し合うことは、学校経営の質を高め、子供たちの学びをより豊かなものにするために不可欠です。連携と共有の輪を広げることで、地域の枠を越えた教育のネットワークを築いていくことができます。今後も、連携と共有に努めましょう。

三点目は、「校長こそ働き甲斐を見出そう！」です。私たち校長は、日々の多忙な業務の中でこそ、子供たちや教職員の成長に寄り添い、学校の未来を切り開く喜びや誇りを見出すことができます。自らの仕事にやりがいを感じ、前向きな気持ちで取り組む姿勢は、必ず周囲に伝わり、学校全体に活力と温かさをもたらします。困難な時こそ「自分がこの学校の校長でよかった」と思える瞬間を大切に、日々の小さな成功や感動を積み重ねていきましょう。その積み重ねが、私たち自身の成長だけでなく、教職員、そして子供たちの成長と未来への希望に繋がると信じています。

共に、「原点に立ち返ること、連携・共有に努めること、校長こそが働き甲斐を見出すこと」を実践しながら、県連小から「新たな風」を起こしていきましょう。

終わりにになりましたが、広島市を含む県内 435 名の校長先生方のさらなるご活躍とご健康を心よりお祈りし、挨拶とさせていただきます。